

羽村市を また ごみのまちにして いいのでしょうか？

小金井市のごみを年間 10,000 トン、 10 年間受入れ表明 西多摩衛生組合

西多摩衛生組合・議員全員協議会は了承？

2月23日(金)午後、西多摩衛生組合議会の終了後、議員全員協議会が開かれました。管理者(並木心羽村市長)は、「小金井市から1月26日、要請があった。多摩地域ごみ処理広域支援協定により、ごみを年間10,000トン、10年間受け入れる方針である」と報告しました。議員(羽村・瑞穂・福生・青梅の議員各3名)からは、「これは追認ということか」「広く地域住民にも説明会を」等、質問などがありました。最後は「了承されました」という議長の言葉で終わりました。

相互支援の適用範囲ではない小金井のごみ

小金井市、府中市、調布市のごみ焼却施設(二枚橋衛生組合)が老朽化し今年3月で閉鎖されます。ところが小金井市だけが19,000トンのごみ処理をどうするか決めていなかったのです。小金井市は、焼却場の建設計画はありますが建設地も決まっておらず、10年後に稼働というものです。小金井市のようなケースは、適用範囲ではないはず。

地域の住民にも知らせず、羽村市議会にもはからず

西多摩衛生組合の正副管理者が決める

西多摩衛生組合の正副管理者(管理者・羽村市長、副管理者・瑞穂町長、福生市長、青梅市長)会議で、小金井市のごみ受け入れが決まりました。西多摩衛生組合周辺の住民にも知らせず(羽村市保全協の役員には説明したとのこと)、衛生組合が所在する羽村市の議会にもはからず、西多摩衛生組合議会にもはからず(議員全員協議会は正式の議会ではない)、住民の環境、健康にかかわる問題を、正副管理者は瞬間に決めてしまったのです。こんな住民無視のやり方でいいのでしょうか。

過大な施設をつくって税金をムダづかいし

さらに、ごみを受け入れ環境悪化させるとは！

西多摩衛生組合の施設建設費は約300億円でした。焼却炉は160トン炉が3基あります。常時1基休ませても3分の2の大きさで十分でした。その規模だったら200億円位の建設費です。

西多摩衛生組合議会で日本共産党は過大な施設に反対し続けましたが、同組合は過大な施設をつくりました。

そして、いま、1万トン受け入れてもまだ余裕はある」として小金井市のごみを受け入れてしまったら、さらに構成市町以外から、ごみを受け入れて」と要請が増え続け、西多摩衛生組合で焼却するごみは増え続けるでしょう。黙っていれば、環境悪化は進むばかりです。

「ごみ戦争」になったごみ穴、三多摩のごみ受け入れ、そしてまた羽村を、ごみのまちにするのですか！

かつて羽村の瑞穂町と隣接する一帯は、砂利採掘跡の巨大な穴があり、そこにあらゆるごみが投棄され「ごみ戦争」になったことも。さらに砂利穴に三多摩各市のごみを受け入れた時期もありました。ごみ公害にさらされてきたのです。

そしてまた、焼却ごみを受け入れようとしています。ごみを焼却すれば猛毒のダイオキシン類をはじめ重金属、硫酸酸化物など有害物質が発生します。施設の性能が良くなったといっても完全に除去されるわけではありません。

ごみ焼却場周辺には、羽村二中、武蔵野小、松林小、一中、羽村高校、養護学校、瑞穂四小などあります。

行政は、環境を良くしていくことこそ考えるべきではありませんか。



2007年3月4日 No.839
発行 羽村民報編集委員会
責任者 野崎 衷

日本共産党羽村市議団のホームページ
<http://www.jcphamura.org/>

広域支援要請に伴う焼却業務等の影響

(西多摩衛生組合議員全員協議会資料より抜粋)

最大焼却可能量... 約101,000トン/年
19年度構成市町ごみ予測量...74,000トン/年
27,000トン/年が、ごみ焼却が可能な現状

無料法律相談 3月13日(火)* 予約が必要です。

連絡先・中原554-1163、高橋555-1911、
市川554-1140、鈴木080-1058-9450

多摩地域ごみ処理広域支援の 相互支援 の適用範囲

予測できない緊急事態に陥り、適正なごみ処理に支障が生じた場合。
予め計画された定期点検、改修、新設のため、その運転を停止し適正なごみ処理に支障が生じる見込みの場合。

市町村等の責務(抜粋)

一般廃棄物処理基本計画に基づき、確実に施設整備を行い、将来にわたり適正管理を確保できるように努めなければならない。

